



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	編集後記
Author(s)	西本, 裕輝
Citation	琉球大学大学教育センター報 = University Education Center Bulletin(10): 173-173
Issue Date	2006-12
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/42014
Rights	

編集後記

大学教育センターも設立から10年が経過し、この度おかげをもってセンター報も第10号を刊行することができた。本報は、10周年記念号にあたるため、学長を含め歴代センター長のお言葉をいただき、この場を借りてお礼申し上げたい。

また本報は、いよいよ始まったプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーの特集号でもある。まだ始まったばかりで共通認識が充分ではないものの、本編の受賞者の言葉からもわかるように、おおむね順調なスタートであると考えている。

本編で示したが、受賞者の学生からの評価は平均に比べてもかなり高い。また、各受賞者の論文からもわかるように、講義に関してさまざまな工夫がなされており、学生からの評価が高いのも納得できる。実際、受賞者のうちお二人の方に公開研究授業を行ってもらったが、さすがと思わせる内容であった。

ただ、このような取組を行う際、注意しなければならないのは、単なるイベントや打ち上げ花火で終わってしまうことである。つまり、表彰自体が目的化してしまい、教育改善には結びつかないこともある。そうした他大学での反省を踏まえ、本取組はあくまでも教育改善のための表彰制度という位置づけをしている。

本取組の真の目的は、全学の教育の質の底上げである。実際、受賞者には公開研究授業の担当や本編のようなセンター報でのノウハウの披露など、全学の教員に対する情報発信者の役割を担ってもらっている。それが他の教員に刺激を与え、全学的な教育改善に結びつくものと期待している。

今後続くであろうプロフェッサー・オブ・ザ・イヤーの取組において、今後も多くの受賞者が誕生するであろうが、ぜひ全学の教育のために引き続き協力いただきたい。また歴代センター長の皆様にも、引き続き大学教育センターへの協力をお願いしたい。

大学教育センター助教授：西 本 裕 輝